

「いじめ未然防止プログラム」の活用にかけるアンケート  
「CoCoLo-J」インベントリーシートの見方について

**1 「1.回答の結果」について**

**(1) グラフについて**

棒グラフの長さは、2名の先生が回答した“その項目に当てはまる児童数”を表しています。グラフが長いほど該当児童の数が多くなります。

- ・左側のグラフ …「II の資質・能力」ごとの結果
- ・右側のグラフ …「カテゴリ」ごとの結果
- ・オレンジ色の棒グラフ…教員A(担任)による回答
- ・青色の棒グラフ …教員B(担任以外)による回答
- ・赤色の折れ線グラフ …教員A・教員Bの回答の平均値

**(2) 「強みと課題」について**

アンケートで「強み(O)」「課題(X)」と回答した項目を教員別に示しています。

**2 「2.このクラスの強み」について**

**(1) 「I 身についている児童が比較的多い資質・能力」について**

赤色の折れ線グラフ(2名の先生の平均値)の上位3つの資質・能力を示しています(同値の場合はグラフのより上側に記載されているものを表示)。

**(2) 「II 「強み」と感じている資質・能力」について**

2名の先生の回答に共通していた「強み」を表示しています。最大 10 項目まで表示されます。共通しているものがない場合は空欄となります。

**3 「3.このクラスの課題」について**

**(1) 「III 身についている児童が比較的少ない資質・能力」について**

赤色の折れ線グラフ(2名の先生の平均値)の下位3つの資質・能力を示しています(同値の場合はグラフのより上側に記載されているものを表示)。

**(2) 「IV 「課題」と感じている資質・能力」について**

2名の先生の回答に共通していた「課題」を表示しています。最大 10 項目まで表示されます。共通しているものがない場合は空欄となります。

**4 「4.授業プラン」について**

「III 身についている児童が比較的少ない資質・能力」で示された3つの資質・能力に対応する「いじめ未然防止プログラム」の「授業プラン」を3つずつ表示しています。上から低学年用、中学年用、高学年用の順に示されていますが、該当する学年のものでなくてもアレンジ次第で利用可能です。

「授業プラン」は、県立教育研修所 Web ページにある「いじめ未然防止プログラム」から授業案やワークシートをダウンロードできます。また、一部の「授業プラン」については教師用映像補助資料(解説動画)を見ることができます。



「いじめ未然防止プログラム」の活用にかけるアンケート

## 「CoCoLo-J」インベントリーシートの活用について

\* 結果をもとにした今後の取組検討についての留意点 \*

### (1) 本インベントリーシートの目的

「CoCoLo-J」は、「いじめをしない・させない・見逃さない」ことに関連する I I の資質・能力の観点から、実施クラスの状態を視覚的に整理するものです。今後のいじめ未然防止への取組の指針を検討するための判断材料のひとつとして利用してください。

この結果は、回答した先生自身が感じている状態を整理し、可視化したものです。あくまで先生から見た児童の姿を整理したものであり、児童自身が回答したものではないことに留意してください。また、児童の見方は関わっている人によってさまざまです。2名の先生が回答するのは、児童の姿を複眼的にみて、より多角的・多面的な視点からクラスの状態を正確に理解するためです。

### (2) グラフと「強み」「課題」の捉え方

グラフの長さは、回答した先生が「その項目に関連する児童が多いと考えているか、あるいは少ないと考えているか」を表しています。また、「強み」と「課題」はその資質・能力が「このクラスの強みとなっていたり課題となっていたりしているか」に対する先生自身の考えを示しています。ただし、インベントリーシートの結果だけからクラスの状態をすべて判断できるというわけではないことに注意してください。

例えば、すぐにカッとなる児童が数人おり、その数人がクラスに大きな影響力を与えている状態の場合には、質問 18 の「友だちから嫌なことを言われたときに、すぐにカッとなったりしない」という児童の数は多い(棒グラフが長い)といった、一見肯定的に見える回答結果になる場合があります。

この例のように、棒グラフの長さでクラスの「強み」や「課題」が一致しない場合もありますので、グラフ(児童の多さ)と「強み」・「課題」(集団に対する影響)の両方の結果、さらにはクラスの実態を考え合わせて、今後の対応の在り方を検討するようにしてください。

#### <グラフと「強み」「課題」とを合わせた考察の例>

①グラフは比較的長いですが、含まれる項目に「課題」が表記されている

(状況例) その資質・能力に課題のある一部の児童のクラスへ与える影響力が大きい

(対応例) 課題のある一部の児童への個別の対応

②グラフは比較的短いですが、含まれる項目に「強み」が表記されている

(状況例) その資質・能力が高い一部の児童のクラスへ与える影響力が大きい

(対応例 1) その一部の児童を生かした学級経営

(対応例 2) その一部の児童が辛い思いをしたり埋もれてしまったりしないような配慮

③グラフは比較的長く、含まれる項目に「強み」が表記されている

(状況例) その資質・能力が高い児童が多いことが、そのクラスの「強み」となっている

(対応例) その「強み」を軸とした学級経営

④グラフは比較的短く、含まれる項目に「課題」が表記されている

(状況例) その資質・能力が低い児童が多いことが、そのクラスの「課題」となっている

(対応例 1) その資質・能力を高めるための具体的な取組を実施

(対応例 2) 全体への取組(「授業プラン」の実施等)だけでなく、日常的な個別への働きかけの徹底や工夫

### (3) 2名の先生の回答の比較

2名の先生の回答が共通しているものは、立場の違う先生から見ても同じようにクラスの様子が感じられているということです。2名の先生の回答が共通している項目はこのクラスの顕著な特徴であると捉えて、「強み」であればそれを生かし、「課題」であればそれを克服するような積極的な取組を実施してください。

一方、2名の先生の回答が大きく異なる場合は、立場や関わり方の違いによる別の視点からの有益な情報と捉えることができます。自分が教室にいない時のクラスの状況を正確に把握することは難しく、むしろ自分が教室にいない時の様子にこそ、そのクラスの本来の強みや課題が表れていることもあります。回答が異なっている項目に対して、2名の先生でそれぞれの理由や考えを共有し合うことで、クラスの状況や個々の児童に対する理解の幅を広げることが可能となります。

### (4) 「いじめ未然防止プログラム」の「授業プラン」の選択と実施

「授業プラン」は「Ⅲ 身につけている児童が比較的少ない資質・能力」の結果をもとに、このクラスの「課題」を克服するという観点から提案されたひとつの具体案です。「授業プラン」を実施しようとお考えの際は、Web ページからダウンロードした授業案をそのまま実施するのではなく、このクラスの状況や児童の様子などに応じて適宜アレンジするなどして、より効果が高まるような授業案を考案されたうえで実施するようにしてください。

「授業プラン」はねらいとなる資質・能力を向上させる“きっかけ”となるものです。この授業で学んだことや体験したことを各種行事や児童会活動、日々の生徒指導に関する取組、掲示物等、様々な日々の活動と関連付けて継続的に実践していくことで効果的な取り組みになります。その際、「いじめ未然防止プログラム」の「特別活動プラン」が参考になると思います。是非活用してください。

なお、いじめ未然防止のためには「課題」の克服だけでなく、クラスの「強み」を生かしていく取組の継続も効果的です。「課題」の克服と「強み」を生かすことの両方の視点から、今後の取組を検討してください。

# 結果シートの見方について(参考)

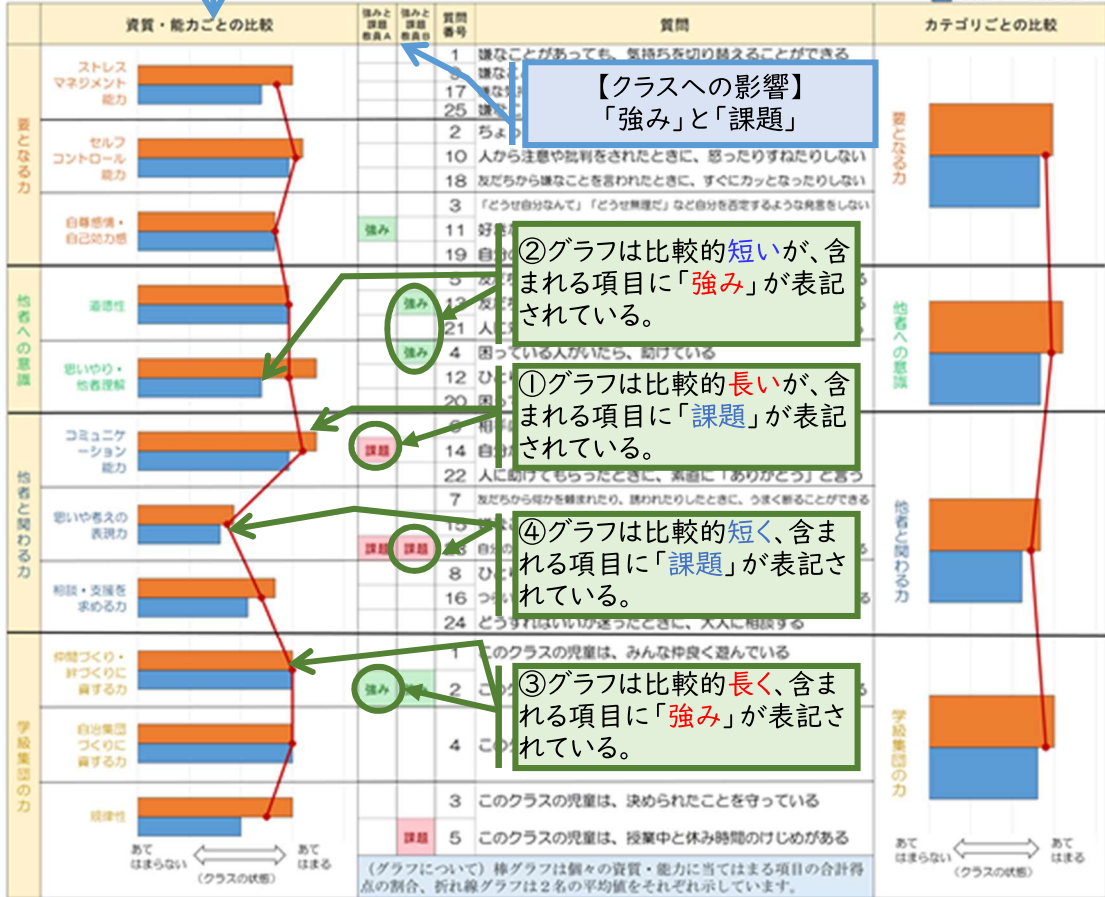
「いじめ未然防止プログラム」の活用を生かせる  
「CoCoLo-J」インベントリ

【児童の多さ】  
赤棒:教員 A / 青棒:教員 B  
折れ線:平均

実施日: 令和6年5月10日  
ひょうご市立こころ小学校 2年生 1組

教員A: 兵庫 花子  
教員B: 加東 太郎

## 1. 回答の結果



## 2. このクラスの強み

- I 身につけている児童が比較的多い資質・能力（平均値より）
  - 1 コミュニケーション能力
  - 2 セルフコントロール能力
  - 3 仲間づくり・絆づくりに資する力
- II 「強み」と感じている資質・能力（一致分）
  - このクラスの児童は、学校や宿での活動にみんな協力している

【クラスへの影響】  
2名で共通した「強み」

## 3. このクラスの課題

- III 身につけている児童が比較的少ない資質・能力（平均値より）
  - 1 思いや考えの表現力
  - 2 相談・支援を求める力
  - 3 規律性
- IV 「課題」と感じている資質・能力（一致分）
  - 自分の考えが相手と違っているかもしれないときに、自分の考えを伝える

【クラスへの影響】  
2名で共通した「課題」

## 4. 「授業プラン」

- V 実施される「授業プラン」（平均値より）
  - 1 思いや考えの表現力
    - 「いっしょに遊ぼう」
    - 「おわがい」
    - 「適切な表現方法」
  - 2 相談・支援を求める力
    - 「わたしのまわりには…」
    - 「ねえ聞いて」
    - 「自らの課題や問題を解決する」
  - 3 規律性
    - 「みんなのさもち」
    - 「あだな」
    - 「もしもの世界は良い世界？」

2名の先生の回答が共通しているものは、立場の違う先生から見ても同じようにクラスの様子が感じられているということになります。一方、2名の先生の回答が大きく異なる場合は、立場や関わり方の違いによる別の視点からの有益な情報と捉えることができるため、2名の先生でそれぞれの理由や考えを共有し合うことで、クラスの状況や個々の児童に対する理解の幅を広げることができます。